

第1回奈良県地域福祉推進計画策定委員会でのご意見・対応案

資料1

項目		ご意見	対応案	
全 般	a	現在、県内市町村の地域福祉に対する取組の状況はどうなっているか。様々な事情で地域差があると思うが、県から市町村に声掛けし、地域差が無くなるよう進めていくと良いのではないか。また、市町村で取り組んでいただくために県としてどのような働きかけを考えているか。	福祉の推進に関する条例を制定し、それに基づき計画で具体的な取組を示していきます。また、市町村地域福祉計画の策定支援を引き続き取組事項として記載します。	
	b	条例の制定とは別に、計画にも基本的な考え方を記載する必要があるのではないか。	次期計画においても、計画における基本的な考え方を明示し推進するため、目指す地域の姿等について条例との整合性を図りながら記載します。	
	c	人的・物的資源の活用だけでなく、行政、民間組織や住民の協働が重要であることを明示してはどうか。	基本的な考え方に、地域の多様な主体の協働による地域力の強化が重要であることについて記載します。	
	d	福祉以外の領域との庁内連携が重要。小規模自治体に向けては、郡部単位などの広域的な取組も必要となるのではないか。	福祉以外の領域も含めた庁内連携、多機関協働について「1. 包括的な支援体制の整備」の中で記載します。	
	e	多機関連携や庁内連携の重要性について、計画で示したほうが良いのではないか。		
	f	地域に既にある資源を活用してはどうか。	地域資源の活用と発掘の取組についても「1. 包括的な支援体制の整備」の中で記載します。	
基本的な考え方の図	g	図には、地域住民の困りごとを聞き、状況を把握し、問題を一緒に考え、つないで解決とあるが、解決は非常に大変で、伴走型支援も丁寧にしていかなければならない。	伴走支援、地域づくりの取組、住民同士の助け合いの考え方を表現するため、基本的な考え方の図を見直ししました。	
	h	地域住民の困りごとへの事後的対応に終始せず、住民同士が互いに気にかけてという予防的対応のための地域活性化、地域づくりの取組も必要であることを明示してはどうか。		
	i	「助ける」だけでなく「助け合う」というスタンスにしてはどうか。		
	j	課題解決しながらまた新たな課題の発見に向かうということを、PDCAサイクル的な視点で図に表現すると良いのではないか。		
ペア ロク グシ ラヨ ムン	3-(1)-② コミュニティソーシャルワーク活動の充実	k	CSWは、様々な場面に丁寧かつ苦勞しながら向き合っている。そういう人たちを増やすとともに、スキルアップを図り、かつ、フォローも必要である。活躍できる環境づくりも必要となってくるので、これらの内容もアクションプログラムに記載してはどうか。	地域に入って課題解決に向けて実践するコミュニティソーシャルワーカーの養成に加えて、活動の実態把握や、活用方策の検討についても記載します。
	4-(2)-③ 福祉教育の充実	l	「福祉教育」とあるが、地域の人々が福祉や人権も含めて学習できる、学びの場を作ることは大事である。介護実習等に限定せず、より広い意味で福祉教育を記載してはどうか。	「福祉教育の充実」を、多様な背景を持つ地域住民がお互いを尊重し、支え合うための学びの促進と位置づけ推進します。